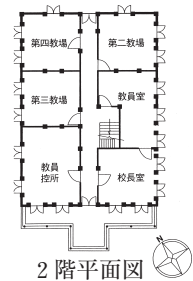


1 旧中込学校校舎 (附 建築文書3点)  
 2 旧中込学校



2階平面図



1階平面図

指 定	国重要文化財	昭和44年 3月12日
所在地	中 込	
所有者	佐 久 市	
指 定	国 史 跡	昭和44年 4月12日
所在地	中 込	
所有者	佐 久 市	



旧中込学校(成知学校改め)は、明治5年(1872)の学制頒布直後建築されたもので、同8年(1875)に完成しており、現存する県内学校建築のうち、最も古い擬洋風建築物である。

建築設計者は、アメリカに渡って建築学を学んだ地元出身の市川代治郎で、外部窓・内部間仕切りなどの一部に当初と変わった点もあるが、日本人の手による明治初期木造洋風建築の様式を知りうる重要な建築物で、関係文書3点も附帯指定を受けている。

本校舎の建築費用は、村内篤志者の寄付によってまかなわれており、当時の地域住民の教育に対する情熱と気概のほどがうかがえる。

中央の八角塔は、天井から太鼓を吊して時を告げたので太鼓楼とよばれ、また窓にガラスを使用していたのでギヤマン学校ともいわれて、開校当時は見学者が後を絶たなかったという。昭和46年(1971)8月1日復元工事に着手し、同48年(1973)6月全工事を完了した。

構造および形式

木造二階建 寄棟造り 妻入り 棧瓦葺き 塔屋付き 西南面。

一階は玄関ポーチ・講堂・第一教場・外3室。

二階は中央に廊下をとり、前面にベランダを付し、南側3室、北側3室をとる。

太鼓楼は八角、各辺1.06m、二階中央階段より登る。

規 模 本屋 桁行き 20m 梁行き12.8m

参考資料 「重要文化財旧中込学校々舎修理報告書」佐久市教育委員会  
 「重要文化財旧中込学校パンフレット」佐久市教育委員会